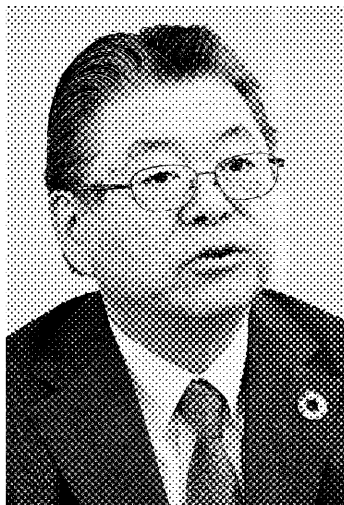


荏原は半導体製造用の化学機械研磨(CMP)装置などが好調で、成長戦略を加速させる。2030年に売上高1兆円規模(24年12月期予想8270億円)を目指し、このうち半導体関連を含む「精密・電子」事業を現在の2倍となる5000億円規模に引き上げる構えだ。将来を見据えて水素など新事業への投資も積極化している。浅見正男社長に方針を聞いた。

半導体と水素投資拡大

30年売上高1兆円に



半導体関連事業の売上高は約2500億円ある。市場全体が倍に増えるため、当社には1兆円(約1500億円)も売上高を2倍の5000億円に拡大すると言っている。ドライ真鍮(銅)の設備投資を進めて装置、CMP装置で構成する精密・電子事業「藤沢事業所(神奈川県)

県藤沢市)にCMP装置の開設棟を建設中で25年半ばに完成する。顧客の半導体プロセスの開発をサポートする。熊本事業所(熊本県南関町)では新生産棟を25年度に移転させる。ドライ真空ポンプなどのコンポーネント事業は藤沢事業所の全自動工場がフル稼働している。30年までの需要には応えられる。台湾にはドライ真空ポンプの第2工場を建設中だ。一連の投資が終わり、(売上高)5000億円の達成に必要な製品性能試験や要素技

荏原社長

浅見正男氏

CMP装置新棟 来年完成

術開発を行う。特殊環境で使われるポンプは実液試験での性能確認が大事だ。自社で液体水素の施設を持つこと、試験環境を整えることに意義がある」

「30年には世界の6億人に水を届ける使命がある。当社の国内シェアは約30%あるが世界では数%しかない。アフリカやシエラの低い地域を中心に5%まで増やすと6億人に水が届く計算になる」

将来を見据えて先手

収益性確保の観点から売上高を追うのではなく、営業利益率や投下資本利益率(ROIC)、株主資本利益率(ROE)を重視する。30年目標としていた時価総額1兆円は24年に前倒しで達成。浅見社長は「やるべきことをやれば時価総額はついてくる」と冷静だ。将来を見据えて先手を打つ半導体や水素の成長が今後のカギを握る。(高島里沙)

記者の目